

あろま

2011.11.17.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

11月例会 ハンドボールの研究をまとめるために②

11月12日(土)にあきる野・一の谷小で西多摩ブロック11月例会が開催されました。

これまで積み重ねてきた西多摩ブロックのハンドボールの研究・実践の成果をまとめ、本にするための取り組みが続いています。11月例会では、低学年、中学年の学習内容や学習の進め方について、より具体的な提案がされました。参加者は7人でした。

近況から

小中一貫教育で中学校の先生が授業を見に来る機会があったが、そのときにやったマット運動の回転加速技術を教える授業が、「体育の授業で理科の考え方を取り入れるなど工夫があった」...お互いに学び合える授業となっていて素晴らしかった」と評価された。(自慢です)(Aさん)

鉄棒の授業をしているが、隣のクラスで鉄棒から落ちる子が多い。手を離してしまったり、落ち方がうまくなくてケガをしてしまったりしているのでマットを敷くことにした。また鉄棒に跳び乗れなかったりもするので台を使ったりしている。「ふとんほし」が怖くてできない子もいる。どうしたらよいでしょう？

(Bさん)

*この質問に対して、例会参加者みんなで考えて、こんな意見が出ました。

・できればウレタンマットがよいが、校庭だとそれもむずかしいので、マットを敷くか(校庭用の防水マットもある)または旅館などにあるスポンジ製で3つ折のマットレスをもらってきて敷く方法もある。

・「ふとんほし」は、足の届くブランコのまわりの柵やジャングルジムを使ってまず逆さになった状態に慣れさせるとよいのではないか。

・鉄棒に慣れていないために、自分の体がどうなっているのかがわからなくなり手をはなすこともあるので、まず鉄棒の下でできる技(ぶら下がり技)を中心に行って鉄棒に慣れてから、鉄棒の上に上がる技に取り組めば、落ちることも少なくなるのではないか。

*そして、「A.ぶらさがり技・あがり技」「B.ふり技・回り技」「C.おり技」の3種類に分類してある、固定施設(ジャングルジム、雲梯、のぼり棒)を使った遊びと鉄棒の個々の技および連続技のほとんどすべてが図解で載っている資料がFさんから提供されました。Fさんがかつて鉄棒の実践をしたときに作ったとてもすばらしい資料です。そのほかに、「お話つぼう」の資料も提供していただきました。資料をご希望の方はご連絡ください。

25歳になった卒業生が運動会をやるといって招待された。やったのはバスケットボール、バレーボール、「こおりおに」だったが、いっしょにやるととても楽しく元気もらった。職場はどうしてもきつくなりがちだが、「楽しく、楽しく」をモットーにやっている。(Cさん)

先月からプレゼンテーションが2つあった。ひとつは郷土教育でにんじんを育てることを通して農家の思いを知る学習、もう一つは校内研の低学年の国語の発表だった。体育は跳び箱、鉄棒をやっている。横跳び越して意図的に跳び方を使い分けができるようになってきた。開脚跳びは横向きでなら全員ができるようになった。(Dさん)

今日の午前中は例会の提案の準備のために学校へ行った。前回の例会の話をもDさんから聞いたが、私のクラスにも特別支援の対象になる子がたくさんいる。傍からは大変そうに見えるらしいが、一人ずつ関わっているとかわいいことを言ったり、すごい発見ができたり、小さな成長を確かめられて、私自身は楽しんでいる。手が10本ほしいと思うが。(Eさん)

特別支援学級の体育を受け持っている。おもしろい。そしてどこに課題があるかもわかる。マット、平均台、的当て、ボール運びなどの楽しいサーキット遊びをしたり、お話マットの「くまさんガオーツ」から側転をしたりしている。教師はどうしても誘い込む言葉が多くなるが、それは一切なしにして「このゆびとまれ」式でやっている。寝転んでばかりいる子ども最後の15分間には入ってきて、あっと言う間に片手側転までできるようになった。逆さになれない子どもいるが跳び箱の一番上の段をゆっくりと越えとできるようになる。が、すぐに消えてしまう現実もある。次は投動作の指導もする。長野教研に行き、同志会員はすぐれた実践をしていると感じた。それは放射能をどう教えるかという保健の授業構想だった。(Fさん)

11月例会が第1・3土曜日ではなかったので、久しぶりに参加することができた。課外でバスケットボールを教えている。校庭もとても狭く、体力テストのソフトボール投げで全国平均より4mも少なかったのも、それを何とかしようということでもある。(Gさん)

「ポケシューゲームを楽しもう」

昨年度の「ポケシューゲーム」の実践をもとにしたハンドボール低学年の学習が提案されました。その概要は...

(1) 連続的当てゲーム パート1 (1:0)

- ・半径3mの円の中央に置いた2つの的にボールを当てて、2分間の得点を競うゲーム。
- ・一人ひとりがボールを持ち、いろいろな場所からボールを投げる。
- ・ディフェンスはなし。

(2) 連続的当てゲーム パート2 (2:0)

- ・2人で協力して、半径3~4mの円の中央に置いた2つの的にボールを当てて、3分間の得点を競うゲーム。ディフェンスはなし。
- ・円の中央にラインを引き、2人の動ける場所を制限し、自分の場所にボールが来たら捕ってシュートする。
- ・仲間がはずしたボールを拾って、仲間にパスをしてシュートして的に当たったら2点。
- ・的が倒れたら、倒した人が立てる。
- ・兄弟チームが審判となり、得点を数える。

(3) 連続的当てゲーム パート3 (2:1)

- ・2人で協力して、円の内側にいる1人のディフェンスをかわして、半径3~4mの円の中央に置いた2つの的にボールを当てて、2分間の得点を競うゲーム。
- ・的が倒れたら審判が立てる。
- ・守りがボールをキャッチしたら、円の外側に投げる。

(4) 連続的当てゲーム パート4

- ・ポケモンの絵を描いた180cm×140cmの布をバスケットボールのボードの下につるしたものをゴールとする。
- ・ゴールの前に半円の制限区域(入ってはいけないところ)を設ける。
- ・ゴールを4つつくり、5分間の間に4つのゴールに当てた数を得点とする。
- ・投げたボールは自分で拾う。
- ・チームを、投げるグループと審判の分グループの2つに分ける。

(5) シュートボールゲーム(4:4)(そのうち一人はゴールキーパー)

- ・(4)と同じゴールと制限区域を使う。コートはミニバスケットボールのコートを利用する。
- ・ワンバウンドボールでゲームを始め、ボールを持って走ったりパスをしたりしてゴール前にボールを運び、シュートする。
- ・ラインからボールが出たら、相手チームが出たところから始める。
- ・シュートが決まったら相手ボールで始める。

(6) ポケシュートゲーム(4:4)(そのうち一人はゴールキーパー)

- ・(5)と同じゴールや制限区域やコートで行う。
- ・(5)とほとんど同じルールだが、次のことをつけ加える。
 - 人が持っているボールは奪い取らない。
 - 1回以上パスしてシュートする。(マスターシュート)
 - ボールの取り合いになったらその場でワンバウンドボール。
- ・全員シュートをめざして、声をかけ合ってパスをしてシュートする。空間があったり、シュートに困った場合はパスをする。

4年生のハンドボールの実践から

Cさんは、今、4年生のハンドボールの学習を実践中です。その実践報告をもとに、中学年のハンドボールの学習内容やゲーム、学習の進め方などについて考え合いました。

《実践の概要》

チーム

- ・9人×4チーム
- ・チーム分けのときに、「ハンドボールの本当のおもしろさを味わうための集団である。」ことを確認し、「みんなの力でみんながうまくなろう。」「いちばん苦手な人を宝にしよう。」をスローガ

ンとして捉える。

- ・チームごとに集まり、キャプテン、副キャプテンを決める。

コート

- ・13.5m(サイドライン)×18m(エンドライン)
- ・制限区域...ゴールの中心から半径4.5m
- ・ゴールはハンドボールのゴールを使う。

ルール

- ・ゴールキーパーも入れて4:4のゲーム。
- ・制限区域にはゴールキーパーしか入れない。
- ・4歩まで歩ける。ドリブルで移動できるが、ダブルドリブルは反則。
- ・ゲーム開始はセンターラインから。得点の後は、センターラインから得点されたチームがパスして始める。
- ・相手を押ししたり困ったりしてはいけない。
- ・反則があった場合は、相手チームがその場所からのスローイングで始める。

など

全体の学習の進め方の概要(全12時間)

時	学 習 内 容
1, 2, 3	実技オリエンテーションとためしのゲーム
4, 5	2:0の学習
6, 7, 8	2:0のためし・たしかめのゲーム
9, 10	3:0の学習
11, 12,	ためし・たしかめのゲーム

オリエンテーションの言葉

Cさんは、ハンドボールのいちばん最初の授業で、こんなふうに話しました。

『今、みんなはニコニコしていて平和だね。これからみんなはハンドボールをするんだけど、ハンドボールをした後にもっとニコニコして仲がよくなるのと、ケンカが起こって泣いたり怒ったりして今よりも仲が悪くなってしまおうのでは、大違いだね。そして、ぼくたち・わたしたちは、より幸せになるためにハンドボールを学んだよね。だからチーム分けをするときに先生はこういう目標を立ててチーム分けをしたよ。

「ハンドボールの本当のおもしろさをみんなが味わえるようにしよう。」

みんながハンドボールをする中では、いろいろなことが起こると思います。人と人とが関わるハンドボールの練習やゲームの中では、いろいろな問題も起こることでしょう。だからみんなとこういう約束もしたいと思います。

「ハンドボールの中で起こった問題は、みんなの力で乗り越えよう。」

みんなの力とは、グループであったり、クラスであったり、学年であったりします。まずはグループの話し合いで問題を解決できるといいですね。それがダメならクラスや学年で解決していきましょう。

グループで話し合いをするためには、キャプテンと副キャプテンが必要です。みんなのために

参加された方の感想から

ポケシューゲームは、去年子どもたちにもとても好評であった。今年もゲームをやるのが、私も今から楽しみである。ただゲームを楽しむだけではなく、考えて攻めることは難しいと思う。1年生の時には、個人のボール技能から始まり、ゲームをした。2年生では、パスの出し手と受け手が共感したシュートを目指して、これから指導計画を考えていきたい (Dさん)

久しぶりに参加させていただきました。原発についてもっと勉強しないと...と思いました。紹介していただいた本を読みます。

ハンドボールは学校で取り入れたことがなかったのですが、他のボールの種目につながる学びやすい教材だと思ったので、今日学んだことを含め、検討します。友とのつながりを感じられるコンビネーションの美しさを楽しめる子どもたちを育てたいと思いました。(Gさん)

ハンドボールの内容とタッチボールの内容が、うまいことリンクしてつながっていく部分があることがわかり、ストーンと落ちた。

去年やったポケシューゲームをもう一度思い出しながら2年生でどんなゲームにしたらよいのか、また学習内容ははっきりさせていかななくてはいけないと思った。がんばらなくては...

一番がんばらなくてはいけないのは、2:0や3:0の攻撃を、コマで動かせるようになることだ!! Cさんのように動かせるようにしたい。

(Eさん)

研究会の設定ありがとうございます。実践を検討していただけるので本当に有難いです。西多摩で学んだことも反映させた実践なので、一つひとつ丁寧に検討していただく中で、自分のものとして高めることができます。人に伝える方法については、もっと工夫する必要がありますね。放射能についても、Fさんの話でよくわかりました。本もじっくり読んでみます。(Cさん)

F先生には鉄棒運動の系統性や指導法を教えていただいたので、早速実践したいです。C先生、E先生には、チームで活動させる際の、子どもの意識付けの大切さを教えていただき、とても勉強になりました。

(Bさん)

- ・オリエンテーションの言葉の基本形。
- ・ハンドボールの基本形ができたように思う。大切なのは何を教えるのかという教科学習内容であり、ここが見えてきているのが何よりも良い。

2:0で、3:0で、4:0でが鮮明になってきており、それが参加者みんなにわかるようになってきているのがうれしい。

(Fさん)

- ・ポケシューゲームやハンドボールの学習内容や学習の進め方が見えてきたように思います。剛力さんのオリエンテーションの言葉が素晴らしい。子どもたちにどうなってほしいかの願いがとてもよくあらわれています。わたしたちがつくる本にも、技術指導や授業の方法だけでなく、願いが生かされる内容になるといいです。

(Aさん)

西多摩ブロック 12月例会のご案内!

日時: 12月18日(日) 午後1時～ 場所: あきる野市立一の谷小学校

問い合わせ・連絡先 TEL: 042-559-4501

アクセス等は以下の一の谷小学校のホームページをご覧ください。

<http://www.akiruno.ed.jp/e-ichinotani>

* ハンドボールの研究をまとめるために *

3年生 タッチボール学習内容・指導内容と実際のゲーム

ポケシューゲーム オリエンテーションの授業、2年生の指導計画



「原発はいらない」小出裕章(著)

出版社: 幻冬舎ルネッサンス

<http://www.gentosha-r.com/products/9784779060489/>

【内容紹介】

福島第一原発は今、どんな状況なのか。放射能汚染は、今や首都圏にも広がってきている。このままでは、日本は「汚染列島」と化してしまう。40年にわたり「原子力研究者として、原発をやめるための研究」に励んできた著者の反原発運動の経緯をたどりながら、原発事故が最悪の場合、日本列島に壊滅的な打撃を与えることを客観的に論証する。では、すべての原発を廃炉にしたあとは、どうすればいいのか? 「化石燃料を使う火力発電は地球温暖化を促す」とか、「原子力発電の経済的効率性を重視する」といった原発推進論者の主張に鉄槌を下しつつ、「電力を好き勝手に使う強欲文化」から、「人と地球にやさしいスローライフ文化」への大転換を提案する。今、最も信頼できる原子力研究者が、渾身の力を振り絞って原発廃絶の思いを綴った覚悟の書。